都市農業援軍の旗揚げ

先の２月３日夕方、池袋にある日本労働者協同組合連合会の会議室で「都市農業研究会」の発足式が行われた。この研究会の事務局は日本社会連帯機構が主体となり、ワーカーズコープ・センター事業団と川崎平右衛門顕彰会・研究会（以下、「顕彰会」）が協力する形で設けられた。言い換えれば顕彰会の活動をきっかけに、労働者協同組合、通称ワーカーズコープがグループとして都市農業を射程に「新たな都市型農的コミュニティへの挑戦」を打ち出したものである▼事の発端は、昨年の11月19日に東京都小平市で開かれた第５回川崎平右衛門研究会にある。研究会の閉会挨拶に立った顕彰会会長・山田俊男参議院議員は、都市農業の現状を憂えて「地球を守り日本を再生するために、川崎平右衛門に倣って、今こそ都市農業の振興を！」と熱く呼びかけた。平右衛門は、江戸時代中期、武蔵野新田の開発を百姓たちの協同の力を引き出すことによって成功に導いたが、その平右衛門を顕彰する活動の一環として、減少を続ける武蔵野台地の都市農地とみどりを守っていこうというものだ。そしてこのための活動をワーカーズコープが事業の一つとして位置づけ、その方向性・戦略を協議する場が都市農業研究会となる▼一昨年12月に成立した労働者協同組合法は本年10月１日に施行となる。労働者、出資者、経営者を三位一体化した小さな協同組合による地域に密着した活動がワーカーズコープの特徴である。法施行の機であることも念頭に、労働者・都市住民が都市農業を消費で支えるところから、体験農園等による農業参画、協同農園の運営、援農、さらには新規就農による都市農業の活性化に取り組み、「都市型農的コミュニティの創造」を目指す。時間をかけての積み重ねと農協との連携がカギを握るが、連携による協同活動の活性化にも大いに期待したい。

（土着菌）